



地域に支えられて

先日、三豊中学校の創立四十周年記念誌に目を通すことができました。そこには、かつて、地域の代表と言える方々が、子供たちが恵まれた施設・設備のもとで教育を受けることができるために、昔の村ごとにあった小さな学校を統合しようと、何度も準備の話合いを持ったこと、統合が決まった後は、丘の上の農耕地を地域住民の方が総出で土地を整え、建物を建て、昭和25年（1950年）4月の開校を迎えたことなどが書かれていました。また、今も生徒玄関の前にある「寒山拾得（かんざんじとく）」の像（右の写真）が、地域の方から寄贈され、開校当初から、三中生を見守り続けていることが記されていました。



この「寒山拾得像」については、先の記念誌の中で、第六代校長である大西季男先生が、次のように書かれています。

「三中に赴任して、興味をひかれたのは、中庭に建つ中国人風の二人の石像であった。このような像がなぜ学校にあるのだろうか。職員に尋ねてみても『寒山拾得です。』という答えの外には、何も返ってこなかった。鷗外の小説を読み、辞書を引いて、寒山拾得は文殊と普賢菩薩の化身であることを知った。智を磨き徳を練る建学精神が、黙示されているように思われ、（後略）」（創立四十周年記念誌より引用）

三豊中学校の成り立ちを知ると、いかに地域の方に支えられて今日があるのかということが、あらためて分かります。私たちは、その地域の方の思いに答えなければなりません。私たちなりの方法で、何かを返さなければなりません。

「生きているということは 誰かに借りをつくること 生きていくということは その借りを返してゆくこと 誰かに借りたら誰かに返そう 誰かにそうして貰ったように 誰かにそうしてあげよう」（「生きているということは」作詞：永六輔、作曲：中村八大）

三中生が明るく元気で、礼儀正しく、頑張っている姿を見ていただくことで、地域の方が元気になってくださる。そんなことができればいいなあと思っています。そのためには、自分を大切にすること、今を大切に生きること、そして、これからの後輩たちに、よりよい学校として三豊中学校を引き継いでいくことを、生徒・教職員・保護者の皆様、みんなが力を合わせてやらなければならないと思います。

何年後かに、「令和初期の三豊中学校はいい学校だったんだなあ。」と言ってもらいたいですね。

<三中生のちょっとしたいい話>

○ 先日、防災の日になんで「救給カレー」が給食に出ました。ご飯とカレールーが、一緒にパック詰めされており、袋を開けるとすぐに食べられるというものです。返却時には、その袋がたくさん出ました。1年4組では、右の写真のように、ゴミの

大雨災害の被災者支援へ義援金寄託
三豊中学校生徒会が企画
三豊市山本町の三豊中学校・久保田員生校長は、静岡県熱海市で7月に発生した大規模土石流などの大雨災害の被災者を援けようと、義援金1万4449円を日赤県支部に寄託した。久保さんは「家が崩れるなどして帰ることができない人たちに、少しでも明日につながる手助けになれば」と話し、山田事務局長は「義援金を皆さんの温かい心と共に被災地で困っている人たちにお届けします」と全校生徒に伝えた。

通じ、被災地に配られる。熱海市の災害をニュースで知った生徒会が、自分たちができることをしたいと企画。7月19日あった生徒会に、保護者、教師による三者談話の際に、募金箱を置いて協力を呼び掛けた。同校で今年1日に義援金の受贈式あり、3年生で生徒会長長の久保文乃さんが、三豊事務局長に義援金を手渡した。久保さんは「家が崩れるなどして帰ることができない人たちに、少しでも明日につながる手助けになれば」と話し、山田事務局長は「義援金を皆さんの温かい心と共に被災地で困っている人たちにお届けします」と全校生徒に伝えた。

体積をできるだけ減らすように工夫してくれていました。こうしてくれると、後の処理をする人が助かりますね。栄養

1年4組から返って来た、救給カレーの袋

こんな、片付けの仕方でもできるんですね。片付けを楽しんでいるようにも思えました。

見た目が、表彰状を丸めた物にも見えて、ほっこりしました 😊

ありがとうございます。

教諭の大平先生が紹介してくれました。1年4組の皆さん、大平先生、ありがとうございました。

○ 前回取り上げた義援金贈呈のことが、四国新聞に掲載されたので、あらためてご紹介します。ありがとうございました。
【令和3年9月7日付 四国新聞より】